種名	ギ　　ギ Pseudobagrus undiceps
分類	**ギギ科ギバチ属**
俗称	**ギンタ(関西)**
形態的な特徴	**体長は 25～30cm になり、日本産のギギ類中最も大型である。尾びれ後縁の切れ込みは深い。吻端から背びれにかけて傾斜が大きく、他のギギに比べ吻がとがる。頭長比 3.3～4.5、頭長に対する眼径比は 0.17～0.20。尻びれの軟条数は 16～26 である。測線は完全。胸びれの棘は前縁部と後縁部が鋸歯はより鋭く大きい。体色は暗黄褐色および黒緑色で、ホルマリン漬け標本では、やや灰色がかった黒色になる。**
分布	**近畿地方以西の本州、四国の吉野川、仁淀川水系の中流域、九州の北東部に分布する。さらに新潟県阿賀野川をはじめ、関東･中部地方などの各地からも報告されているが、それらは、琵琶湖産アユの放流などによるものと考えられる。**
繁殖行動	**産卵期は 5～8 月で、石の下やその隙間に産卵する。卵は球形で、直径 1.5～2.0 ㎜である。産卵生態はよくわかっていない。胸びれの棘を用いてギギと音を出すことから命名されたという。**
生息場所	**昼間は石の下やヨシ場に潜み、主に夜間に活動し摂餌する。降雨後の増水･濁水時に摂餌したり、流れのゆるやかな深い淵で群永することがある。**
食性	**雑食性であるが、底生動物や小魚を主に食っている。**
生息環境への配慮事項	
引用文献：改訂版　山渓カラー名鑑　日本の淡水魚を改変	